

食料・農業・農村政策審議会 議事概要

1. 日時：令和2年3月25日（水）11:00～12:15
2. 場所：農林水産省7階講堂
3. 出席委員：大橋委員、栗本委員、近藤委員、佐藤委員、染谷委員、高野会長、中家委員、松尾委員、宮島委員、三輪委員、柚木委員、大山専門委員、関司専門委員、中谷専門委員、西村専門委員（有田委員、磯崎委員、加藤委員、上岡委員、砂子田委員、高島委員、平松委員、堀切委員、前田委員は欠席）
4. 概要
○新たな食料・農業・農村基本計画（案）をテーマに開催。

<基本計画>

（松尾委員）

- ・ 大規模自然災害やASFは必ず国内でも起こることが想定できるので、いつまでも想定外と言っていられない認識を持つべき。
- ・ 若者の新規就農者数が増えている状況にあり、また、国内マーケットが縮小する一方で海外マーケットは拡大していることから、誰でも簡単に輸出できるような相談窓口の設置が必要。
- ・ また、スマート農業やDXについて、情報公開やパイロットプロジェクトで具体事例を示していくことで、若者の更なる就農などにつながっていくものとする。

—答申後—

（三輪委員）

- ・ 今後はその普及に向け、インターネットやSNSの活用と、これを更に補完したような方策を検討してほしい。農業者や事業者との直接のコミュニケーションは、今回の基本計画の方向性を定めるのに有意義だったし、重みを持って受け止めることができた。コロナウイルスの影響がある中、どこまでface to faceのコミュニケーションができるか分からないが、本審や企画部会委員にも出ていただくなどにより、これまで頂いた意見をフィードバックする機会の提供や、次に向けたメッセージが発信できるような企画の検討を進めて欲しい。
- ・ 今回の基本計画についてのメッセージを国民に伝える時に大事なものは、都度検証の過程を見ていただくこと。当然、検証した結果、全ての取組がうまくいくわけでもない。今般のコロナウイルスのように外部環境が変わることもあるが、その中で何が上手く行ったか、何が苦戦しているかを毎年見ていた

だいて協力いただくのがよい。今回の方針に共感をいただける農業者・国民は多いと思うが、もっと助けてあげようと思っていただける機運を醸成できる方策を検討すれば、次の世代にバトンタッチできるような政策執行になる。

(中家委員)

- ・ 企画部会の議論やJAグループの提案等も踏まえて計画をとりまとめていただき感謝。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で大変な状況だが、こういう逆境の中での新たな基本計画スタートだからこそ、実践力を高め、掲げた目標を前倒して達成することが重要。消費者、行政、関係事業者の皆様と連携しながら、JAグループとしても組織を挙げて計画の達成に取り組んでまいりたい。
- ・ 農林水産省で、基本計画のポイントの一枚紙を作成しているが、農業関係者向けと一般消費者向けでは、それぞれの理解度に合わせて記載をは変えるべき。消費者向けには、関心を持って読んでもらえるように、もっとわかりやすく漫画や図表を入れるなどの工夫が必要。新たな基本計画をどう国民に理解して頂き、農業に関心を持ってもらうかが重要。

(大山委員)

- ・ 今回この計画を、農業にかかわる人以外にも知ってもらうためには、ブリーフィングの冒頭や大臣が国会で発言される時に、売りや狙い、新しさは何かを総括して伝える一言があると良い。
- ・ 今回の計画において一番分かっていたきたい狙いは、国民にいかに食と農が大事かということをご理解いただくことであり、議論の中でも大事なものと位置付けてきたことを冒頭で述べていただくとよい。
- ・ ポイントや要約には、数字や政策目標、進め方の論拠になるものが過不足なく必要なものが盛り込まれていると思う。国民運動の展開は新たに特記したものであるため、趣旨をきちんと伝えていくべき。
- ・ 海外の医療基盤の例を見ると、生きていくために必要なものの生産基盤が脆弱になると、巨大な異変が起きたときに大変になるので、衛生・医療面とは別に、国民が生きていくためには、農業の生産基盤は重要であることを改めて認識をしたということも国民に理解してもらえるようにするとよい。

(柚木委員)

- ・ 現場の方で計画を踏まえてそれぞれの創意工夫の活動に結びつけていくことが大事であり、農業委員会としても周知してまいりたい。
- ・ 都道府県や市町村で作られる振興計画にも、本計画の趣旨が盛り込まれる必要があるので、今後の推進の中でよろしく願いしたい。また、人・農地プランの実質化の取組を徹底していく必要があるが、農業者の方々に基本計画の趣旨を分かりやすく伝え、地域の中でのプランづくりに盛り込まれていくことが重要なため、農業委員や最適化推進委員にも基本計画を周知しつつ、

そういう取組に更に力を入れていきたい。

(中谷委員)

- ・ 学生に教えるという観点から、学生が興味を持っていることと、政策の基盤になっていることがあまり繋がっていない。過去何年間かの政策の経緯が知りたい場合は、学生には、基本計画がどう変わってきたかを見るよう伝えているが、学生たちからは言葉の定義や相互関係をフォローするのが難しいと言われるので、用語集等で、政策の中で何を指しているのか、正確な定義を整理してもらえると教育効果が高いし、研究論文でも定義に基づいたぶれない議論ができる。同じ言葉でも人によって受け止めが変わると議論がずれてしまうので、そういうことがない形にしてほしい。
- ・ 普及啓発活動の中で、若い世代の子供たちに、自給率や自給力の意味とその違い、自給率を高める必要性、国産のものを食べる重要性、潜在的な生産力とは何かについて説明することが重要なため、小学生でもわかるような資料があると効果的である。

(関司委員)

- ・ 政策推進力をどうつけるかが重要。自治体の財政・人員は厳しい状況にあり、実際に農政の弱体化が進んでいる。市町村なり都道府県の担当にどう伝えるか、個々の事業との連動性を意識したメッセージの出し方が重要。自治体の人員は限られているが、一方で、地域をサポートしていく人材、中間支援的な動きは広がっており、集落支援員の仕組み、NPO の動きなどの厚みは増している。このような動きに関しては、農村分野に限らず、食料分野や農業分野でも関係する主体が増えている。
- ・ 農政担当者以外の関係者にもこの基本計画を知ってもらう必要。基本計画の考え方を彼らの事業推進のメルクマールにしてもらうことが重要。
- ・ 自治体農政の弱体化が進むなか、地域農政未来塾や地域リーダー養成塾など、人材育成の動きが少しずつできており、このような政策遂行の担い手たちにもこの計画を知ってもらい、側面から応援してもらう必要。

(染谷委員)

- ・ 40代の若手と収入保険について話す機会があった。一昨年前に開催された収入保険の研修会の際は収入保険に入っていなかったが、一昨年の台風19号の被害にあったことをきっかけにその重要性に初めて気づき、これから収入保険に入ると話してくれた。収入保険を理解して加入してもらうのに一年半かかった。農家は反応が鈍い。この基本計画がどうしたら農家に浸透するのか。
- ・ 食料を作るということ、国民の食料を作ること誇りを持つ、生きがいを持つことが大事。国民はお金さえあればどこでも食料を買えるが、外国からどんどん入ってくるのが当たり前ではなく、入ってこなかったらどうなるのか。いざという時に、農業をやる人がいなくなっている、そういう危機意識を持

ってもらうようにすることが必要。計画を見てもらえれば意識してもらえら
と思うので、ぜひよろしく願いしたい。

(近藤委員)

- ・ 自給率を現時点より下げないようにする必要。農村政策は高齢化が止まらな
い。我々の地域含めて、どこも学校の統廃合が行われている。医療分野でも、
医療機器が高額で、病院経営が成り立たず、農業だけ後継者不足かと思っ
たら、7つの病院のうち3つの病院は跡を継がせないと言っている。このよ
うに生活インフラがズタズタになっていくのではないかと危惧する。
- ・ 農村政策について他の省庁と連動する仕組みは必要。ここは別の役所だとば
らばらでは、現場に影響がある。成果が出ても別の面で打ち消されたりする。
農水省が中心になってほかの省庁をまとめてほしい。
- ・ PDCA サイクルが回るような運用と、予算の確保をお願いしたい。年度ごとに
進捗を点検してもらいたい。

(栗本委員)

- ・ 基本計画が浸透し、食べることは生きることであることを国民に深く理解し
てもらうとともに、農業に携わる人々がその「生きること」を担っている
という誇りと責任を感じてもらえるような、道しるべになってほしい。
- ・ 幅広い人たちに関心を持ってもらえるよう、情報を全体で見せるだけではな
く、細分化して興味があるところを引き出していく形もあると思う。その方
法としては、先日のバズマフや、「100日後に死ぬワニ」などのように一つ
ずつ興味を引き出す手法など、あらゆる手法を使った情報の提供をお願い
したい。

(以上)